

## 心理カウンセリング学科 4つのPOINT

## フレンドリーな教員とともに、しっかり学べます

POINT  
01

本学科は1年生から少人数のゼミ制をとっています。教員は、ゼミや担当科目での親身な指導を心がけているほか、オフィスアワーをはじめ、昼休みや講義のないときなどにはできる限り個別の質問や相談に応じています。フレンドリーな教員とともに、心理の学びを深めていきましょう。

POINT  
02

## 道内で唯一「精神保健福祉士」を取得できる心理系学科

本学科では、心理的な側面と、福祉的な側面の双方から対人援助について学び、広い視野を持った人材をめざすことができます。福祉的な側面の学びを経て、国家資格「精神保健福祉士（PSW）」の取得も可能で、これは道内にある大学の心理系学科では本学科のみとなっています（平成30年度入学者、見込み）。なお、PSW取得者の就職率は、毎年100%を達成しています。

POINT  
03

## 「公認心理師」取得に対応した新カリキュラムを導入

本学科で心理学の学びを深めた後、併設の大学院に進学して「臨床心理士」をめざすことができます。また、平成30年度からは新たな国家資格である「公認心理師」の取得に対応した新カリキュラムの導入を予定。公認心理師は私たち教員も受験することになりますので、ともにがんばりましょう！

POINT  
04

## 現場経験の豊富な教員が、実践力を育みます

本学科には、カウンセラーやソーシャルワーカーとしての現場経験が豊富な教員がそろっています。現在も実践の場を持っている教員も少なくありません。私たちが現場で得たものを学生に伝え、リアルな学びを提供しようと思っています。ぜひ、心理カウンセリング学科で実践的に学んでみませんか。

小坂 守孝  
心理カウンセリング学科  
学科長・教授

専門は臨床心理学全般。慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得。  
企業や教育機関などでカウンセリング業務に従事。2006年より本学教員。  
現在の担当科目はコミュニティ心理学、産業・組織心理学など。

## 過去3年間の進路決定率



※1 就職・進学決定者を指します。

※2 関連する学科の情報を参考として紹介しています。

※3 平成26年度については平成27年5月1日現在、平成27年度については平成28年5月1日現在、平成28年度については平成29年5月1日現在のデータを掲載しています。

## 就職先一覧

(過去3年間のデータ)

**[福祉心理学科]** (社福) 北ひろしま福祉会、(社福) 黒松内つくし園 児童養護施設 黒松内つくし園、(社福) 札親会、(社福) 長井学園(支援員)、(社福) 榆の会(支援員)、(社福) 博栄会、(社福) 美深育成園 児童養護施設 美深育成園、(社福) 北翔会 医療福祉センター 札幌あゆみの園、(社福) 麦の子会 むぎのこ児童発達支援センター、(社福) 室蘭言泉学園 児童養護施設 わかすぎ学園(児童指導員)、(社福) 葉岩この実会(支援員)、(社福) 緑星の里、(医社) 洋洋会 北海道メンタルケアセンター(心理職)、特定非営利活動法人 いちえ舎、特定非営利活動法人 さっぽろこどもさぽーと、(株) 健美創 児童発達支援・放課後等デイサービスのびのば(心理職)、(学) 国際学園 星槎国際高等学校、今金町教育委員会、北海道厚生農業協同組合連合会、本別町役場(事務職)、倶知安町役場(事務職)、オカモトグループ、(株) ジェイブロード(営業職)、長谷川ホールディングスグループ(総合職)、(協) 日専連釧路、日本生命保険相互会社、(株) マイナビ、(株) マックスアンドウェブ、マックスバリュ北海道(株)、よつ葉乳業(株) など

**[医療福祉学科]** (医社) 旭川圭泉会病院、(医社) 心劇会 さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ、(医社) 国南会 あしりべつ病院、(特医社) 慶愛会 札幌花園病院、(特医社) 千寿会 三愛病院、(医) 五風会 さっぽろ香雪病院、(社福) あしなみの会 アトリエ・ほっとしかはま、(社福) 釧路恵愛協会 地域生活支援センター・ハート釧路、特定非営利活動法人アシスト 多機能型事業所あずあいむ など



あなたの「どうして？」に、応える学科。

COCORO  
School of Education and Culture  
Department of Psychology and Counseling  
Vol.04

子どもたちのこころに  
寄り添う知識とスキルを。



#### 子どもを支える心理職になりたい

新川：高橋さんは1年生から私の授業を受けてくれていて、3年生では「スクールカウンセリング」という授業で一緒にしたね。もともとその分野に関心があったんですか？

高橋：はい。1・2年生のさまざま授業で、スクールカウンセリングの話はいろいろな場面で出てきたので、興味を持つて聞いていました。

新川：私も含めて、この学科には現在もスクールカウンセラーとして活動している教員が何名もいますからね。

高橋：そうですね。私も将来は子どもの支援ができる心理職をめざしています。

新川：就学前の子どもから高校生まで、どちらの年齢の子を対象にするイメージを持っていますか？

高橋：小さな子です。児童養護施設などで直接かかわって、子どもたちを支えられる存在になれたらしいなと思っています。

#### 保育士から心理士へ方向転換

新川：私も児童養護施設で働いていたことがあります。何らかの事情で家から離れなければならなくなつた子どもたちを支えていく仕事ですね。大学院生になると、児童養護施設での実習もありますが、高橋さんも大学院への進学を考えていますか？

高橋：そうですね。臨床心理士の資格取得には欠かせないので、大学院進学も

視野に入れながら勉強しているところです。

新川：なるほど。ちなみに児童養護施設には入学前から興味があったんですね？

高橋：いえ、大学に入ってから知りました。昔から子どもが好きで、中学生のときは保育士になりたいと思ってインターんシップにも行ったりしていたんです。

新川：でも、大学では保育士ではなく、心理の道を選んだんですね。

高橋：はい。子どもが好きと同時に、心理学にも興味あったので、子どもの心理面のサポートをしてみたいと思うようになったんです。

#### 支援の押し売りにならないように

新川：そうだったんですね。スクールカウンセリングの授業で印象に残っているのは？

高橋：緊急支援についての学びです。特に災害における心理面のサポートに関する内容が印象的でした。

新川：大きな災害などの不幸な出来事があった場合、スクールカウンセラーは自分が勤務していない土地へも緊急で派遣されることがあるんです。

高橋：怖い思いをした子どもたちにとって、カウンセラーのサポートがあれば、とても心強いのだろうなと感じました。

新川：そうですね。ただし、支援の押し売りにならないことが大事で、その人に本当に必要な支援は何なのかを考える力が必要です。

高橋：カウンセラーの自己満足にならないよう、相手が望んでいることにしっかりと寄り添ってあげることが大切んですね。それと、これは緊急支援ではないですが、子どもたちや保護者、教師からの相談についての話も印象に残っています。

新川：そうですか。どのように感じましたか？

#### 「なりたい自分」を演じてみよう

高橋：相談されて瞬時に判断しなければならない場合もあるのだなと。その際にしっかりと考えて対応していくための知識とスキルを磨いていきたいと思います。

新川：そのためにも、授業では学生が話し合いながら考えるための機会を設けるようにしています。話すのがあまり好きじゃない人もいるとは思いますが、それでもやってみればみんなけっこう話せるものです。

高橋：私も話し合いなどは得意ではないのですが、今はおもしろさを感じています。

新川：ただで学生時代までは人前に出ると顔が真っ赤でしたよ(笑)。でも、カウンセラーや大学の教員という役割を演じながら人前で話すなかで、それもいつしか本当の自分になってきたと感じます。だから「積極的に自分から話しかける人」という役割を演じてみるのもいいかもしれませんよ。

高橋：そうですね。しっかりと相手の話を聞き、自分の意見や考えも伝えられるようになっていきたいです。

Hokusho no Shinri

COC ORO  
X  
CROSS  
X  
TALK

ひとりかに「心理の学び」と書いても、  
学ぶ大学によって違いがあります。  
また、同じ大学に通う学生でも、  
一人ひとりがめざしている将来は、  
あなたの想像以上に幅広いはずです。  
今回登場するのは、2組の学生と教員。  
その語りから「北翔の心理」を感じ、  
求める学びをイメージしてみましょう。



その人らしく生活できる  
環境づくりを支えたい。

先生が語る、  
あなたのこと。

#### 明るくて、学生と先生の距離が近い

寺田：河野くんも4年生か。うまくいけば来年3月で卒業だね(笑)。

河野：はい、うまくいけば(笑)。先生の授業は2年生後期の「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」から履修はじめ、それから4年生までずっとお世話になってきました。

寺田：授業でわからない部分は聞きに来たりして、本当に熱心に取り組んでますよね。

河野：心理カウンセリング学科は、すごく接しやすい先生ばかりですが、なかでも寺田先生の研究室はいつもウェルカムな雰囲気なので本当にありがとうございます。

寺田：よく言った。さすが4年生(笑)。

河野：高校2年生のときにオープンキャンパスに来て、北翔大学の明るい雰囲気や、学生と先生の距離の近さを感じましたが、その印象どおりの毎日を過ごしています。

#### カウンセラーとソーシャルワーカー

寺田：河野くんの現在の目標は？

河野：精神保健福祉士の資格を取得してソーシャルワーカーとして働くことです。

入学の時点ではカウンセラーになりたいと思っていたましたが、2年生になって精神保健福祉関連の授業を受けるようになってから、クライエントさんと1対1で関わるカウンセラーよりも、その方を取り巻く環境づくりを支えるソーシャルワーカーのほうが自分には向いているのではないかと思うようになりました。

寺田：どちらも対人支援職ではあるけれど、高校生のみなさんにはわかりづらいかもしれませんので、学校を舞台に少し解説してみましょう。不登校やひきこもりの問題を抱えている生徒に対して、直接的にかかわるのがスクールカウンセラー。一方で学校や保護者といった本人を取り巻く社会的(ソーシャル)な環境に働きかけていくのがスクールソーシャルワーカーですね。この学科は、どちらも学べる道内唯一の心理系学科ですが、そのメリットを感じてくれていますか？

河野：はい。心理学の科目を通して、利用者さんとのコミュニケーションなどを実践的に学ぶことができ、これはソーシャルワーカーの分野でも活かすことができる感じます。

#### 実習を通して、自分と対面する

寺田：ところで、精神保健福祉士の資格取得に向けて、在学中に2回の実習がありますね。4年生に上がる前の春休みに1回目があって、河野くんはすでに経験済みですが、その実習で得たいちゃんと大きな学びは？

河野：自分と利用者さんは別の人間であり、できることできないことには違いかあるということです。友だちはできて、自分にはできないことがあるように、利用者さんができないことを決して責めてはいけない。それを頭ではわかっているつもりでも、心が追いついていかない自分を感じました。

寺田：そうやって自分と対面するのはすごく大事なこと。偏見や差別感を持つ自分と向き合い、どう乗り越えていくのか。私も学生時代にボランティアなどで障がいのある人たちと接するなか、いろいろと解決しきれない課題を抱えました。そんなとき、当時の先生から「4年間で解決しなくてもいいよ。現場に行って解決しなさい。上っ面でわかったフリをしちゃダメ」と言われてね。それで精神科の病院でソーシャルワーカーとして働き、今は後進の指導をしているわけです。

#### 経験豊富な先生によるリアルな学び

河野：寺田先生もそうですが、この学科には現場を経験されている先生が多いですよね。リアルな体験に基づいた授業をしてくれるので、教科書だけでは理解しきれないような部分までしっかり学べていると感じます。

寺田：というわけで、2月の国家試験に向けて勉強中かと思いますが、就職先は？

河野：春休みの実習でお世話になった地域生活支援センターがとてもいいところだったんです。利用者さんがその人らしく生活できるように、ものすごく考えて動いている職員のみなさんばかりで、このような職場で働いてみたいと感じました。夏休みには医療機関での実習も控えているので、またそこでいろいろと考えることになるとは思いますが。

寺田：考えて、動いて、何かあれば相談においで。ドアはいつも開いているから(笑)。